

第1回での質疑内容

○上下水道事業の概要について

事務局より、水道事業、下水道事業の順に、事業の概要等の説明を行う。

○質疑 応 答

委 員：簡易水道地区の水量と箇所はどのくらいか。

事務局：現在3地区（上中、針木、坪池）があり、上中地区については水質悪化のため、平成23年度に上水道に切り替えを予定している。また、針木地区についても、水量が低下しているため、平成24年度に上水道への切り替えを予定している。なお、簡易水道の水量は、3地区合わせて1日平均166m³である。

委 員：水道事業の有収率はどのくらいか。

事務局：21年度で82.8%であるが、管の老朽化で年々低くなっている。

委 員：市内に石綿管はあるのか。

事務局：第5次拡張事業で、石綿管の布設替は完了し、現在は無い。

委 員：県からの受水単価が引下げられたと聞いたが、どの程度なのか。

事務局：これまでの1m³当り75円が、H23年度から70円となり、1m³当り5円の引下げとなった。受水量については、日量：19,200m³から5%下がり、日量：18,240m³となった。これによる、受水費は22年度に対し、年間で59,568,000円軽減すると見込んでいる。

委 員：平成22年度から、約1億円の補助金が見込めなくなったとあるが、その内容はどのようなものか。

事務局：平成21年度までは、国の高料金対策補助金を受けていたが、受水単価の引下げや経営改善等により事業状況が上向きとなったことから、平成22年度からは対象外とない補助が受けられなくなった。

委 員：1億円の収入減と6,000万円の経費減となるが、4,000万円のマイナスになるということか。

事務局：単純に、この二つの要素だけを比較すればそうなる。

委 員：平成21年度や22年度の決算や経営内容がわかる資料は提示されるのか、決算書は誰にでも内容が理解できるものなのか、出来るだけ判りやすいものにしてもらいたい。

また、老朽管更新など、2年後3年後、長期的な設備投資計画

なども提示されるのか。

事務局：経営状況、決算書などの資料については、出来る限り判りやすいものとし、整備計画等についても次回に提示する。

委員：鉛管の更新計画や対応は。

事務局：鉛給水管の更新は、配水管の老朽管更新に併せて実施することとし、給水管のみの更新予定は今のところない。

委員：給水管は、個人所有のものか。

事務局：本市は、水道加入金を徴収していないので、給水工事の費用は利用者が負担する。しかし、施工後は市へ寄付をしてもらい、以降はメーターまでの給水管は市が維持管理する。

委員：次回以降の予定や日程等はあるのか。

事務局：第2回、第3回で具体的な説明と協議、4回目で答申案の協議、5回目で答申を頂ければと考えている。

委員：氷見の水道は高いと言われているが、どの位高いのか県内平均や高岡と比べてどうか。

事務局：月20m³の使用で、県内平均：2,922円で、氷見は、4,661円、もっとも安い黒部で1,081円、小矢部で3,822円、高岡で3,310円、射水が3,255円で県西部が高い傾向にある。

委員：水道が高いのは、1級河川などの水源が無いからか。

事務局：県西部については、県のダム水であり、氷見は自己水源が無いため、水道水の全てを県の子撫ダムの水に頼っている状況で、事業費の4割が受水費であり、かなりの負担となっている。

委員：下水道料が水道に比例するという事は下水道料も高いのか。

事務局：下水道使用料は、水道の使用水量を料金算定の基礎としているが、料金、単価が比例している訳ではなく、現在は県内平均より下にある。

委員：氷見市の水道事業は、高岡、射水と比べどこが違うのか。単純に言うと、他市に比べ材料費が高く、施設経費も高いということか。

事務局：高岡、射水は自己水源があり、水道水の全てを県水に頼っている訳ではないが、氷見は全て県水に頼っている。また、施設においても高岡、射水に比べ、氷見は中山間地域へ水を揚げるための施設が非常に多く、その費用も大きい。

委員：県の設備投資に係るに負担金額はいつまで続くのか、また、安くないのか。

事務局：県との協定は3年に1度見直すことになっており、今年がその見直しの年であった。平成20年度にも見直しがありその時は、水道料金を下げている。県の施設に係る維持費などの固定費は必要であり、人口減などで給水量も減少していることから、必然的に過大な施設になってきている。

委員：下水道の接続率とは、接続世帯数の比率のことか。

事務局：接続率の算定対象は、接続戸数ではなく、接続人口に対して算定している。

委員：下水道の普及率の算定について。

事務局：資料の普及率とは、計画面積に対しての、整備済み面積の比率のことである。

委員：下水道は、3年以内の接続と聞いているが、まだ未接続の世帯があるのか。

事務局：現在の接続率（水洗化率）は、約82%で、残りの18%、世帯数で2,200世帯程度が未接続状態である。その理由としては、浄化槽を設置していることや独居高齢者世帯、経済的な理由があり、新規の接続者は年間200件以上あるが、水洗化率に飛躍的な伸びはない。